

本当の教えに出会うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第26号

発行:2013年7月12日
発行者:浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
〒739-0147 副住職 天野英昭
東広島市八本松西6丁目10番1号
☎・FAX 082-428-0160・082-428-1360

盆会法座

日時 8月1日(木) 9:00~15:00頃

朝席 9:00~11:30 昼席 13:00~15:00

ご講師 山下瑞円 師(岡山県高梁市成羽町 浄福寺副住職)

※ 山下義円師は、本願寺の副総務になられ、京都を離れる事が出来なかったために息子の山下瑞円師をお迎えします。山下瑞円先生は、岡山の高校の先生をしておられる時に、教員として大変お世話になった方です。



第23回歎異抄輪読会

日時 7月18日(木) 19:00~20:30頃

ご講師 松田正典先生(広島大学名誉教授)

費用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です。
歎異抄第1章「弥陀の誓願不思議にたすけられまいらせて」をご講義頂いております。

天龍寺墓苑合同参拝

日時 8月12日(月) 18:00~19:30

場所 磯松天龍寺墓苑

※ 大変お忙しい時期とは存じますが、多数のご参拝を念じ申し上げます。
但し、天龍寺墓苑での合同参拝は、関係者の方のみとさせていただきます。

★天龍寺仏教婦人会 広島別院清掃奉仕 7月29日(月) 8時30分出発

★天龍寺仏教壮年会 定例会 (19:00~20:30頃)

未定、関係の方にはご連絡をさせていただきます。なお、現在天龍寺仏教壮年会の方には天龍寺本堂の床の張り替えに尽力をいただいております。その日程と調整をしながら、定例会の日を決めていきたいと思っております。ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

人は何故に生きていかななくてはならないのでしょうか？ IV

しかしながら、この様な事を言いながら、「後生の一大事」と言いながら、「今が一番大事」な存在であり、本当に今の生き方が正しいのかと心が揺らぐことが、度々あります。その様な時私はいつも歎異抄の第 2 条の「おのおのの十余箇国のさかひをこえて、身命をかへりみずして、たづねきたらしめたまふ御ころざし、ひとへに往生極樂のみちを問ひきかんがためなり。……」こ

の言葉で、勇気づけられます。私たちの先人が生命にかえても求められた物は何であったか。この章を思い出すたびに、そうであったと思いなおすところです。

当山では毎月歎異抄輪読会をさせていただいております。その中で松田先生はよく歎異抄を覚えなさいと言われます。その言葉が心深くしみわたり、日頃の自分の生きてく指針・支えになってくるからだとも言われます。先生はこれもよく言われますが、自分が困難に遇い、どうして自分がこの様に苦しみ・悩み等を受けなければならないのかと思う時に、歎異抄の第 1 条の「弥陀の誓願不思議にたすけられまいらせて……」という文が思い出されると言われます。そのたびに自分は救われているのだと、はたと感じ「南無阿弥陀仏」と称えますと言われます。

また、歎異抄の前序に「耳の底に留むるところ、いささかこれを注す。」という文があります。

唯円さんは親鸞聖人からそれは多くの事を教えられたと思います。その教えられた事が、時間と共に自分の心の中で浄化され本当に耳の底に留まる事を記されていると思います。まさしく親鸞聖人と唯円さんの魂だと思っております。それ故に一時封印されても時代が真実を求め、世に出たと感じております。普遍的な真理・真実・美等は時代に淘汰されず、必ず世に出てくるものだと思っております。絵画の「モナ・リザ」も良い例だと思えます。

今の一步は何のためか、どこに向かっているのか、自分は何のために生を受けたのか、不思議と寺に生を受け、寺を継がないと母を困らせ、それでもこうして浄土真宗にご縁をいただいている私が、しみじみと感じる所を述べさせていただきました。

最後に親鸞聖人は約 90 年の人生をかけて何を求められたのか。まさしく「生死いづべき道」「生死解脱の道」もっと簡単な言葉で言えば、「相対・有限を超えていく道」を求められました。浄土真宗にご縁をいただいた私たちがどのような生き方をしていけばよいのかという答えを親鸞聖人の歩まれた生き方から教えられるのではないかと、これもしみじみと感じるところです。さらに願わくば、自分には難しいと思いますが、親鸞聖人のようにこの世に生を受け、ご本願に遇わせていただいたことを慶べれば幸いかと存じます。

※ 4回に渡り、読みにくい文章を書かせていただきましたことお詫び申し上げます。

第33回川上仏教婦人会連合法座を終えて

さる7月7日(日)に第33回川上仏教婦人会連合法座が当山で行われました。午前中は総会、広島音楽高等学校卒業生(谷崎友美さん・田坂久紗乃さん)の演奏、天龍寺コーラス「さくら」の合唱があり、午後は観山正見先生(元国立天文台台長)をお迎えして、お話をさせていただきました。寿福寺仏教婦人会・妙徳寺仏教婦人会・天龍寺仏教婦人会の方を中心に、歎異抄輪読会・天龍寺コーラス・天龍寺仏教壮年会・中央仏教学院卒業生の多くの方のご参加をいただきましたこと書面をお借りしてお礼を申し上げます。さらに天龍寺としましては、多くの方とのご縁をいただきましたことにも感謝申し上げます。ありがとうございました。